

# 史跡斎宮跡

平成16年度現状変更緊急発掘調査報告

平成18(2006)年3月

明 和 町

## 序

史跡斎宮跡は、指定面積が137.1haに及ぶ全国でも有数の大規模史跡です。

昭和45年以来続けられている発掘調査は、約21haに達しました。これまでの調査で多くのことが明らかになっておりますが、史跡東部では奈良時代末から平安時代の基盤の目のような区画が確認されています。しかし、斎王制度の始まりである飛鳥・奈良時代の斎宮は史跡西部を中心部があったと想定されているだけで実態はよくわかつていません。そのことから、平成14年度からその候補地の範囲確認調査がはじめられ、道路や塀で囲まれた何らかの中心施設の存在がうかがえる区画などが確認され、初期の斎宮も徐々に解明されつつあります。

また、史跡整備については「斎宮跡歴史ロマン広場」が完成して4年が経過しました。町や地元地権者の多くが史跡指定30周年を目指して、次期整備を期待しております史跡東部の「遺構の学術的復元整備ゾーン」をどのように整備を進めていくべきか地元も含め国・県と検討する時期に入ってきたと考えます。

この報告書は、平成16年度に45件提出された現状変更等許可申請の中で事前発掘調査が必要であった24件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、第145－1次調査のように比較的まとまったものや、浄化槽のような非常に小さなものなど規模は様々です。また、調査場所は広い史跡内を点在しており、これらは計画調査では得られない貴重な資料を与えてくれるものであり、成果の積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究グループの方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成18（2006）年3月

三重県多気郡明和町

町長 木戸口 真澄

## 例　　言

- 1 本書は、平成16（2004）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地内）の現状変更緊急発掘調査結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第145－6, 7次調査の2件は公共事業として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館調査研究グループ及び明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査地区名の表示方法（例：6 A L 8）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003年）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合を図るために、測地成果2000施行以前の国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表現している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告』I（斎宮歴史博物館 2001年）を基準とした。
- 7 遺構冒頭の略記号は見た目の形態から以下のように表記した。  
S B；掘立柱建物 SD；溝 SK；土坑 SZ；落ち込みほか P i t；柱穴
- 8 遺物の実測図は、実物の4分の1に縮小しての表示を基本としている。
- 9 調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の編集は、小濱 学（斎宮歴史博物館 調査研究グループ）および中野敦夫（明和町 斎宮跡課）が行なった。執筆は、小濱・中野のほか、当該年度の調査担当者であった竹内英昭（斎宮歴史博物館 調査研究グループ）が担当した。なお、文責は文末に示している。

# 目 次

I 前 言	1
II 調査報告	
1 第145-1次調査	2
2 第145-2次調査	2
3 第145-3次調査	2
4 第145-4次調査	6
5 第145-5次調査	7
6 第145-6次調査	7
7 第145-7次調査	7
8 第145-8次調査	7
9 第145-9次調査	7
10 第145-10次調査	9
11 第145-11次調査	9
12 第145-12次調査	9
13 第145-13次調査	9
14 第145-14次調査	10
15 第145-15次調査	10
16 第145-16次調査	10
17 第145-17次調査	10
18 第145-18次調査	13
19 第145-19次調査	13
20 第145-20次調査	15
21 第145-21次調査	15
22 第145-22次調査	15
23 第145-23次調査	18
24 第145-24次調査	18
付編 史跡現状変更等許可申請	19

**表・挿図目次**

[表] 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 第145次調査 遺構一覧表	14
3 第145次調査 挖立柱建物一覧表	14
4 第145次調査 遺物観察表	17
5 第145次調査 縦軸陶器出土地点破片数一覧表	17
6 平成16年度現状変更等許可申請一覧表	20
[図] 1 史跡地内発掘調査位置図	
2 調査区位置図① (1 : 4,000)	3
3 調査区位置図② (1 : 4,000)	4
4 遺構平面図① (1 : 200)	5
5 遺構平面図② (1 : 200)	6
6 遺構平面図③ (1 : 200)	8
7 土層断面図① (1 : 100)	11
8 土層断面図② (1 : 100、第145-2次は1 : 200)	12
9 土層断面図③ (1 : 100)	13
10 第145-11次調査区と方格地割の位置関係 (1 : 1,200)	16
11 第145-13次調査 出土遺物実測図 (1 : 4)	16
12 第145-19次調査 出土遺物実測図 (1 : 4)	17

**写 真 図 版**

1 第145-1次調査 上：調査区全景（東から）	下：S B8998（南から）
2 第145-1次調査 上：S B9000（南から）	下：S D8986・9110（西から）
3 第145-2・3次調査 上：2次調査区全景（南から）	下：3次調査区全景（北から）
4 第145-10・13次調査 上：10次調査 土層断面（東から）	下：13次調査区全景（東から）
5 第145-15・17次調査 上：15次調査区全景（西から）	下：17次 S D9120（北西から）
6 第145-18・19次調査 上：18次調査区全景（北から）	下：19次調査区全景（東から）
7 第145-19次調査 上：S B9130・9131（東から）	下：S B9132（東から）
8 第145-20・24次調査 上：20次調査風景（南から）	下：24次調査区西側（北西から）
9 第145-24次調査 上：調査区東側（南から）	下：S D9129（西から）



松阪市  
松木町



第1図 史跡地内発掘調査位置図

# I 前 言

斎宮跡は、平成16年度で史跡指定をうけて26年を経過する。この間、年間50件程度の調査目的以外での現状変更等許可申請が出されている。平成16年度は45件で、ほぼ例年並の件数であった。その内訳は道路・側溝改修、下水道布設、個人住居の新築・増改築、史跡整備などがある。

近年の傾向としては、耐震構造を備えた住宅の建設が増加してきている。また、下水道布設といった社会資本の整備や環境保全への配慮も、社会の流れといえる。個人の財産権・生活権もあり、このようなことは当然必要と思われる。そのような行為を行政上認めていかなければならない。ただ、このような事業が史跡地内で実施された場合、下部遺構の保護という文化財保護行政側の課題とは、相容れないものとならざるを得ない。国民の共有財産である史跡という側面と、人々が生活する空間としての史跡という2つの相容れない側面をもつてゐる斎宮跡において、今後どのようにそのことを両立させていくのか、非常に難しい課題である。史跡と人々が生活する空間の共生を目指し、更に努力しなければならない。

環境への影響を踏まえ、個人住宅の浄化槽設置は、当該年度も申請が多くあった。工事自体が遺構検出面まで達する事例が多い。しかし、学術調査がほとんど実施されていない住宅密集地内の調査となることが多く、調査対象面積は小規模であってもその調査記録は極めて重要といえる。当該年度も、方格地割の側溝を確認するなど重要な成果がえることができた。

(小瀬 学)

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m <sup>2</sup> )	うち補助金調査件数	同調査面積 (m <sup>2</sup> )
昭和54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	45	24	2,372	7	762
計	1,155	295	56,172	169	22,692

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

## II 調査報告

### 1 第145-1次調査 (6 A K 5)

調査場所 多気郡明和町字古里575-1

原因 駐車場及び庭園

調査期間 平成16年4月13日～5月6日

調査面積 425m<sup>2</sup>

概況) 調査地は斎宮歴史博物館に北接し、史跡範囲の北西部にあたる。周辺では、第31-6次調査や第85-4次調査が実施されている。当調査は、駐車場造成等に伴いその全域を対象として実施したものである。なお、事業面積が大きいため、調査は2分割して行うこととなった。当調査はそのうちの西半分にあたる。東半分は平成15年度に第142-14次調査として実施されている。

現地表面の標高は約10.8mである。現況は畠地となっている。遺構検出面は橙褐色粘土で、標高約10.2m前後で確認することができた。なお、調査区東部から中央部にかけて、黒色土が確認できた。本来は、この黒色土層上面で多くの遺構が検出できるものと考えられるが判別が難しい。遺構が明確に確認できる橙色粘土層まで掘削し検出を行った。

遺構と遺物) 検出した遺構は、掘立柱建物2棟、溝6条、土坑6基である。掘立柱建物のうちS B 9000は4間×2間の側柱建物で、棟方向は座標北方向に対し約31°東に偏る。調査区外に延びるS B 8998も同様の規模とみられるが、棟方向はそれぞれ異なる。出土遺物が少ないため断定はできないが、2棟ともに、建物を構成する柱穴群から斎宮編年I-1～2段階に相当する土器が出土している。このことから、奈良時代前期のものである可能性が高いといえよう。調査区内を大きく半円形に巡るS D 9101は中～近世のものである。また、調査区の南端に沿って直線的に延びるS D 8986は、出土遺物から判断して奈良～鎌倉時代のものである。

(竹内英昭)

### 2 第145-2次調査 (6 A P 6)

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿2876

原因 建物建築

調査期間 平成16年4月7日・8日

調査面積 47m<sup>2</sup>

概況) 調査地は、斎王の森から北へほぼ200m、塚山道沿いに位置する。現況は住宅地で、現地表面の標高は約10.5m、遺構検出面と考えられるのは明黄褐色粘土層で、標高約10.0m前後で確認できた。調査対象部分は後世あるいは現代の擾乱で、削平等をうけている可能性がある。遺構、遺物とも確認することはできなかった。

(小濱 学)

### 3 第145-3次調査 (6 A L13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉3401

原因 建物建築等

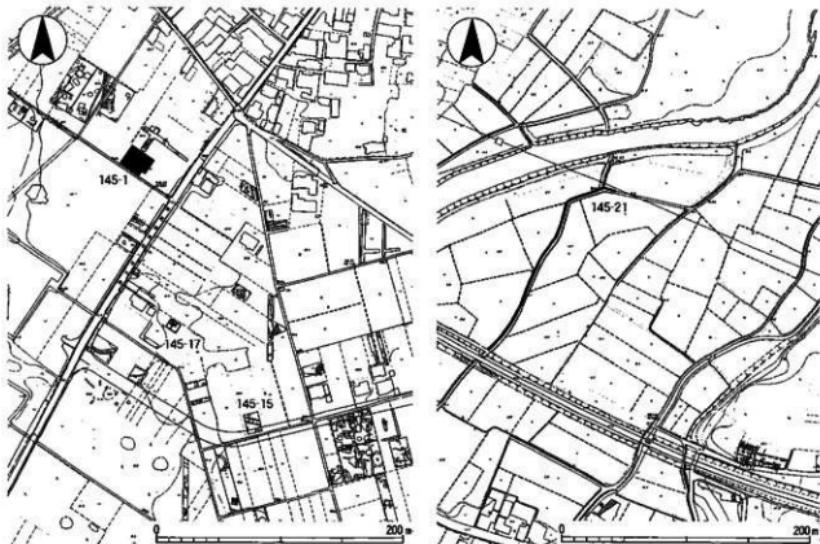
調査期間 平成16年6月4日

調査面積 4.2m<sup>2</sup>

概況) 調査地は、斎宮小学校の南側、旧参宮街道沿いに位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約13.2m、遺構検出面と考えられるのは灰黄色粘土層で、標高約12.3m前後で確認した。建物基礎の施工部分については、遺構検出面まで達しなかった。

遺構と遺物) 検出した遺構は、溝S D 9114を確認した。調査区内では遺物の出土を確認ができなかつたため時期の判断に苦しむが、平安時代のものであろうか。

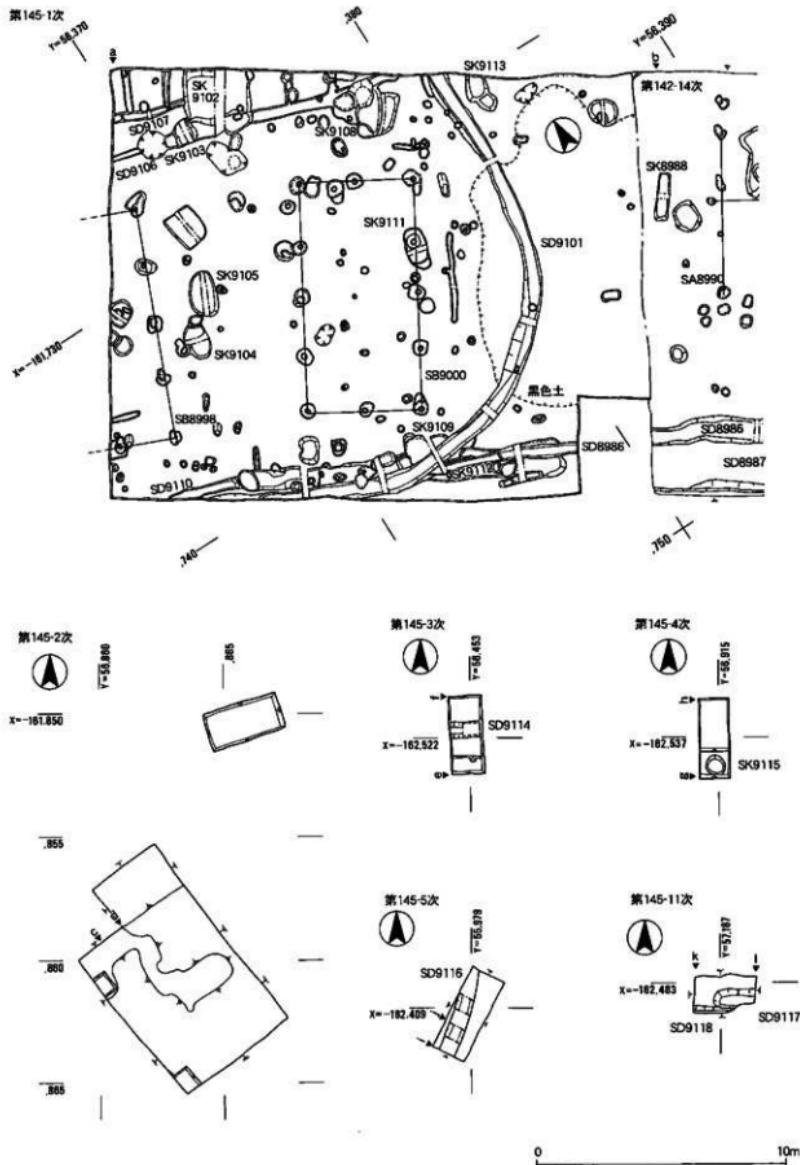
(小濱 学)



第2図 調査区位置図① (1 : 4,000)



第3図 調査区位置図② (1 : 4,000)



第4図 造構平面図① (1 : 200)

4 第145-4次調査 (6 A Q13)

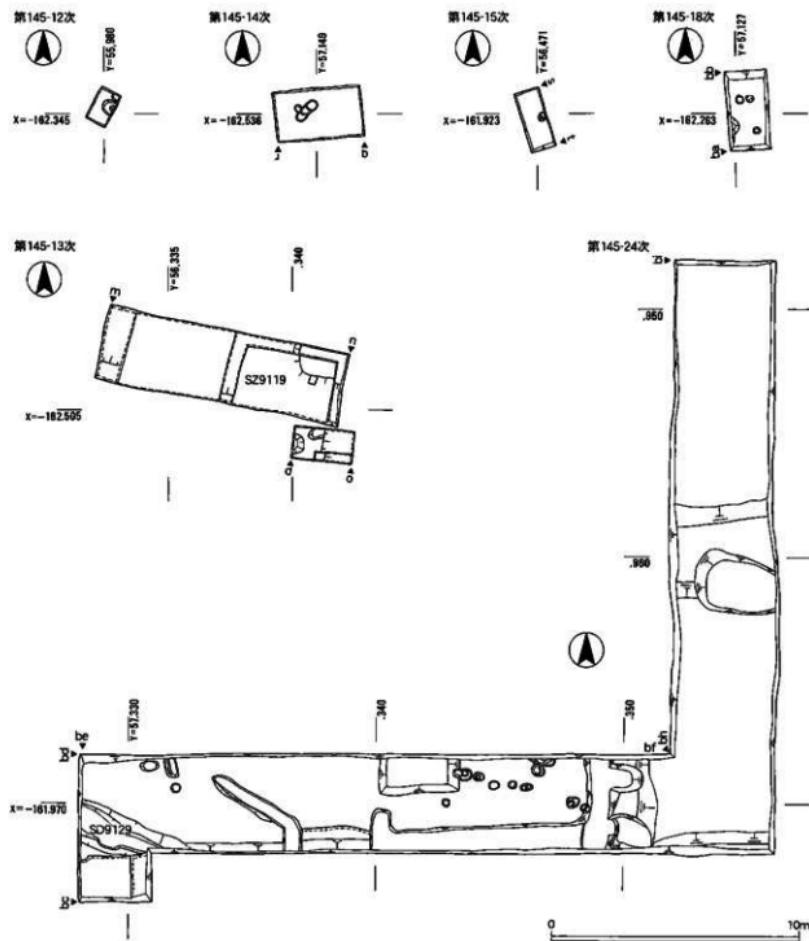
調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉325

原 因 净化槽設置

調査期間 平成16年6月8日

調査面積 4.0m<sup>2</sup>

概況 調査地は、竹神社から西約150m付近に位置する。現況は住宅地である。方格地割鈴池西区画内にある。浄化槽設置に伴う緊急調査である。現地表面の標高は約11.6m、造構検出面と考えられるのは明橙色粘質土層で、標高約10.7m前後で確認した。



第5図 造構平面図② (1 : 200)

**遺構と遺物** 遺物の出土を確認することができなかつたので、時期は判然としないが<sup>5</sup>、土坑S K9115を確認することができた。  
(小濱 学)

## 5 第145-5次調査 (6 A G12)

調査場所 多気郡明和町竹川字中垣内459

原 因 浄化槽設置等

調査期間 平成16年7月9日

調査面積 4.8m<sup>2</sup>

**概況** 調査地は、斎宮小学校の西約400mに位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約14.0m、遺構検出面と考えられるのは浅黄色粘質土層で、標高約12.3m前後で確認することができた。

**遺構と遺物** 遺構については、近世以降のものと思われる溝S D9116を検出した。遺構検出面のレベルが低く、後世の削平等をうけている可能性もある。遺物は、近世の陶磁器が少量出土した。  
(小濱 学)

## 6 第145-6次調査 (6 A R 7・8, U 7・8)

調査場所 多気郡明和町斎宮字北野地内

原 因 下水道管布設

調査期間 平成16年7月20日～12月28日

調査面積 760m<sup>2</sup>

**概況** 調査地は、史跡北東部の住宅密集地域である。町道敷地内における下水道管布設に伴う緊急調査である。幅0.8～0.9m程度のトレンチ調査となつた。便宜上、工事の工区別（18工区）で調査次数を付した。なお、詳細は後年に報告するものとし、本報告では第1図に位置を表すにとどめた。  
(小濱 学)

## 7 第145-7次調査 (6 A R 7・8, U 7・8)

調査場所 多気郡明和町斎宮字北野地内

原 因 下水道管布設

調査期間 平成16年7月20日～12月28日

調査面積 550m<sup>2</sup>

**概況** 先述の第145-6次調査と同様である。便宜上、工事の工区別（17工区）で調査次数を付した。なお、詳細は後年に報告するものとし、本報告では第1図に位置を表すにとどめた。  
(小濱 学)

## 8 第145-8次調査 (6 A P13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉3016-1

原 因 建物改築等

調査期間 平成16年7月29日

調査面積 2.5m<sup>2</sup>

**概況** 調査地は、竹神社から200m付近旧参宮街道沿いに位置する。基礎の施工部分は、遺構検出面まで達しなかつた。現地表面の標高は約12.0m、遺構検出面と考えられるのは淡黄褐色粘質土層で、標高約11.3m前後で確認した。遺構・遺物とも調査対象部分では確認することはできなかつた。  
(竹内英昭)

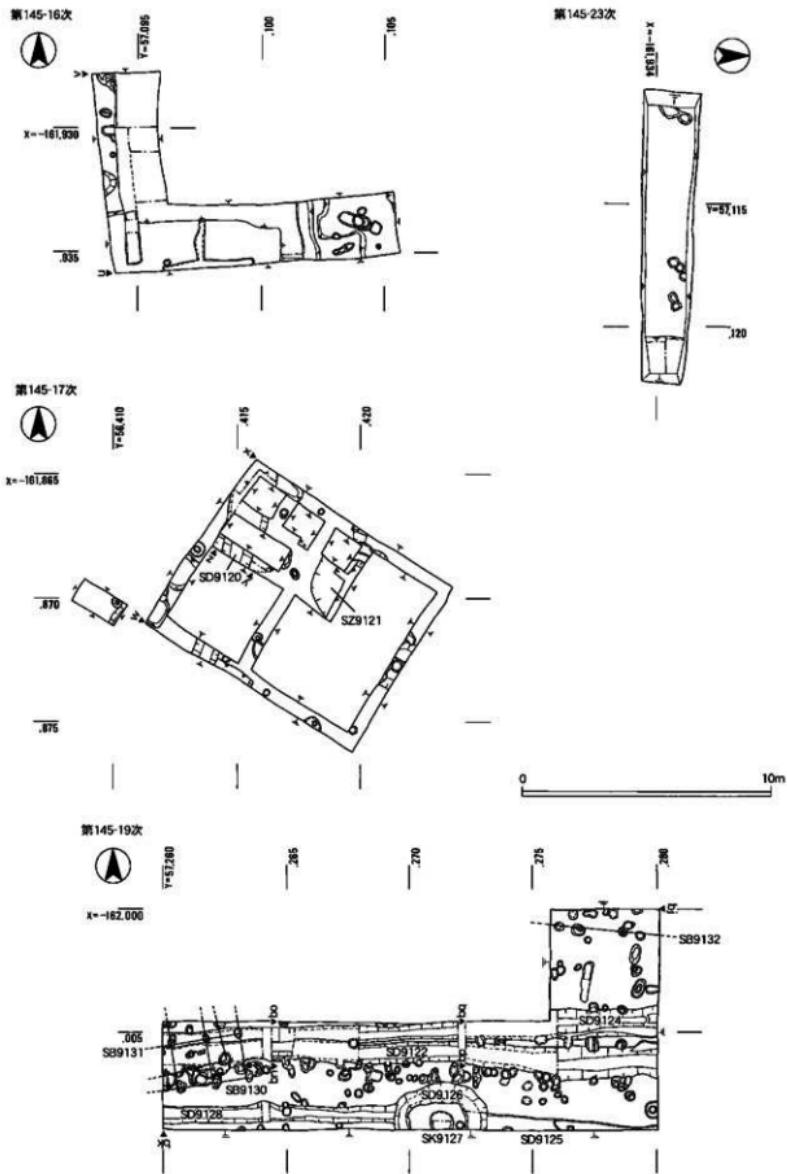
## 9 第145-9次調査 (6 A U13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西611

原 因 建物建築等

調査期間 平成16年7月30日

調査面積 4.5m<sup>2</sup>



第6図 遺構平面図③(1:200)

**概況)** 調査地は、竹神社から東150m付近に位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約9.9m、遺構検出面はにぶい黄褐色粘土で、標高約9.4m前後で確認できる。遺構・遺物とも調査対象部分では確認することはできなかった。昭和61年度に第58-7次調査、平成15年度に第142-16次調査が隣接地で行われている。

(小濱 学)

#### 10 第145-10次調査 (6 AJ12)

**調査場所** 多気郡明和町竹川字東裏352-1

**原 因** 净化槽設置等

**調査期間** 平成16年10月15日

**調査面積** 4.8m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、斎宮小学校から西150m付近に位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約14.1m、遺構検出面は橙色粘質土で、標高約13.3m前後で確認できた。基本層序は、現地表面の上から、表土、盛土、黒色土、橙色粘質土であった。調査対象部分では、遺構・遺物ともに確認することができなかった。

(小濱 学)

#### 11 第145-11次調査 (6 AR13)

**調査場所** 多気郡明和町斎宮字中西2748-1

**原 因** 建物建築

**調査期間** 平成16年8月18日・20日

**調査面積** 3.2m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、旧参宮街道沿い竹神社から東約100mに位置する。方格地割鍛冶山西区画内にあたる。現況は住宅地で標高は約10.7m、遺構検出面は明黄褐色土で、標高約9.9m前後で確認した。

**遺構と遺物)** 基本層序については、上から、表土、盛土（現代廃棄物が入る）、明黄褐色土であった。この上面で遺構を確認した。搅乱をうけて、本来の遺構検出面のレベルではなく削平を受けている可能性もある。調査の成果としては、浄化槽部分で、古代のものと考えられる溝SD9117・9118を確認した。SD9118については、これまでの調査成果から、方格地割鍛冶山西区画に南面する道路の北側側溝であることが確認できた。調査対象の部分は狭小ではあるが、新たに斎宮跡方格地割のデータの蓄積という大きな成果を得ることができた。

(小濱 学)

#### 12 第145-12次調査 (6 AH12)

**調査場所** 多気郡明和町竹川字東裏357-4

**原 因** 便槽設置等

**調査期間** 平成16年8月25日

**調査面積** 1.5m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、斎宮小学校から西約200mに位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約12.6m、遺構検出面は橙色土で、標高約12.1m前後で確認した。

**遺構と遺物)** 柱穴2基を確認した。建物等を構成するものかどうかは、調査対象地点が狭小なため判断できない。柱穴は、古代～中世のものと考えられる。

(小濱 学)

#### 13 第145-13次調査 (6 AK12)

**調査場所** 多気郡明和町竹川字東裏266-5

**原 因** 建物建築

**調査期間** 平成16年8月31日～9月1日

**調査面積** 47m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、斎宮小学校の南に隣接する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約13.0m、遺構検出面は褐色土で、標高約12.5m前後で確認した。

**遺構と遺物)** 調査の成果としては、中世以降のものと考えられる落ち込みS Z 9119や時期不詳の柱穴を数基確認した。調査地の全体が落ち込む状況で、全てを掘削することはできなかった。区画を意識したものなのかな、地形の変化なのは判断に苦しむ。S Z 9119からは南伊勢系の土師器鍋等が出土した（第11図1～10）。これらは伊藤編年第3～4段階に比定できよう。

（小濱 学）

#### 14 第145-14次調査（6 A S 13）

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西589

原 因 庫裏改築

調査期間 平成16年6月8日

調査面積 7.2m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、竹神社から旧参宮街道沿い東約50m付近に位置し、方格地割中西西区内にある。現況は住宅地である。現地表面の標高は約11.1m、遺構検出面は橙色土で、標高約10.0m前後で確認した。暗灰黄色粘質土層の上面で時期不詳の柱穴数基を確認した。

（小濱 学）

#### 15 第145-15次調査（6 AM 6）

調査場所 多気郡明和町斎宮字塚山3338-7,-8

原 因 建物建築等

調査期間 平成16年9月22日

調査面積 2.5m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、斎宮歴史博物館から東約150mに位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約11.2m、遺構検出面は明黄褐色土で、標高約10.3m前後で確認した。基本層序は、上から、表土、盛土、黒褐色土、明黄褐色土であった。明黄褐色土上面で時期不詳の柱穴を確認することができた。

（小濱 学）

#### 16 第145-16次調査（6 AR 7）

調査場所 多気郡明和町斎宮字西前沖2604-51

原 因 建物建築等

調査期間 平成16年10月4日～7日

調査面積 43m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、竹神社から北約500m付近に位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約10.3m、遺構検出面は明黄褐色粘質土層で、標高約9.6m前後で確認した。

**遺構と遺物)** 中世のものと考えられる柱穴を数基確認した。旧陸軍関係施設の建設により削平されているようである。平成15年度に南側道路部分で第142-5次調査を行っているが、同様の調査状況であった。

（小濱 学）

#### 17 第145-17次調査（6 AK 6）

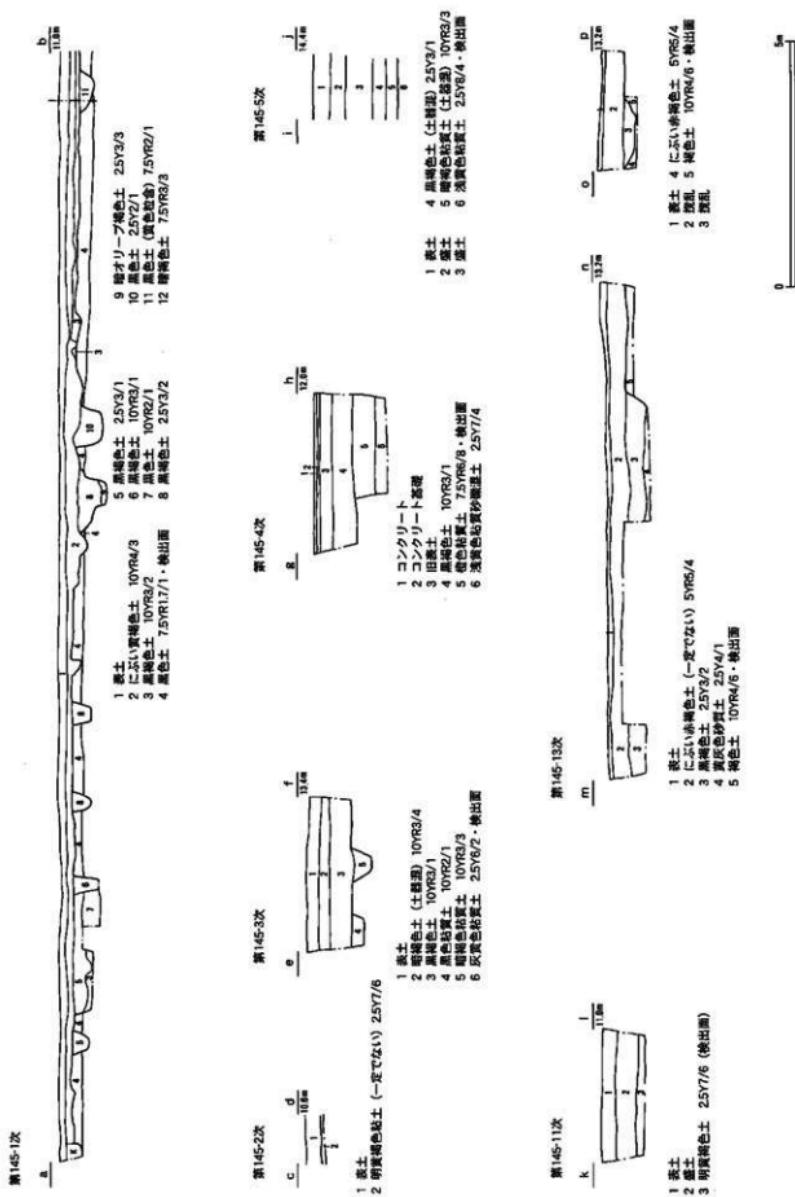
調査場所 多気郡明和町斎宮字塚山3269-1

原 因 建物建築等

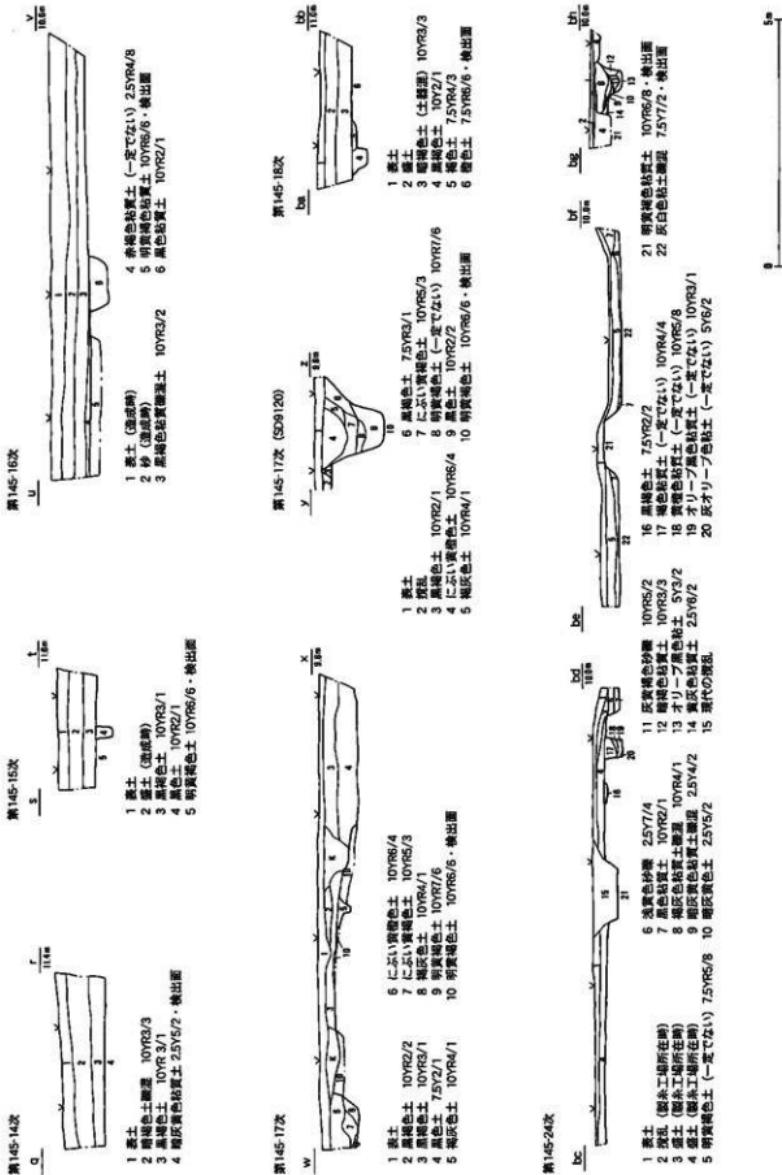
調査期間 平成16年11月2日～9日、平成17年1月13日・14日

調査面積 60m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、斎宮歴史博物館から東約180mに位置する。現況は畑地である。現地表面の標高は約9.6m、遺構検出面は明黄褐色土層で、標高約9.3m前後で確認した。



第7圖 主斷面圖① (1:100)



**遺構と遺物)** 古代～中世に属すると考えられる溝 S D9120や落ち込み S Z9119、時期不詳の柱穴を確認した。S D9120については遺構検出面から約1.1mの深さがある。通称鎌倉大溝と合流するものであろうか。調査地の隣地において、昭和54年度に第25-2次調査が行われている。遺構検出面が現地表面から約40cm下であり、今回の調査でそのことも追認することができた。

(小瀬 学)

### 18 第145-18次調査 (6 AS 10)

調査場所 多気郡明和町斎宮字西加座2678-2

原 因 淨化槽設置等

調査期間 平成16年11月15日

調査面積 3.6m<sup>2</sup>

**概況)** 調査地は、竹神社から北約100mに位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約10.7m、遺構検出面は橙色土層で、標高約10.1m前後で確認した。なお、調査地は、方格地割西加座南区画の西側ほぼ中央に位置する。

**遺構と遺物)** 橙色土上面で柱穴数ヶ所を確認することができた。柱穴からの出土遺物が確認できず所属時期の判断に苦しむが、埋土が黒褐色土であることから、平安時代のものと考えられる。(小瀬 学)

### 19 第145-19次調査 (6 AU 7)

調査場所 多気郡明和町斎宮字東前沖2501

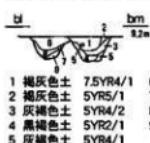
原 因 建物建築等

調査期間 平成16年11月17日～12月1日

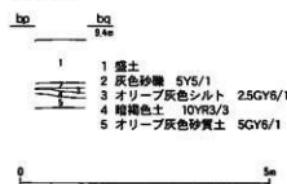
調査面積 110m<sup>2</sup>



第145-19次 (SD9122, 9124)



第145-21次



第9図 土層断面図③ (1 : 100)

遺跡編番号	性 格	次 数	測量地図名	地 区	グリッド	時 期	断面図	遺構の性格・遺物・その他の特徴
S D9101	構	145-1	溝1	K5	g1012か	室町		土師器・鍋・甕(1)、須恵器、土師器鏡(南伊勢系)、山茶碗(6)、陶器片が出土。
S D8995	溝	145-1	溝2	K5	g10・r10ほか	鎌倉		土師器盤・甕・杯(1-3)、瓶(1-2-3)、須恵器蓋・杯、山茶碗(6)が出土。
S K9102	土坑	145-1	土坑3	K5	g6-712か	奈良	1の範囲	土師器盤・甕・瓶、須恵器蓋・杯、土器少頃が出土。
S K9103	土坑	145-1	土坑4	K5	s7			出土遺物なし。
S K9104	土坑	145-1	土坑5	K5	g5・r5	室町		土師器皿(中骨)・甕(古代)、土器少頃が出土。
S K9105	土坑	145-1	土坑6	K5	r6・9	奈良	1の範囲	土師器盤・甕、須恵器蓋・杯、土器少頃が出土。
S D9106	溝	145-1	溝7	K5	r7~	奈良?		土師器盤(1)、土器少頃が出土。
S D9107	溝	145-1	溝8	K5	r6~	室町		土師器盤(1)、土器少頃が出土。
S K9108	土坑	145-1	土坑9	K5	t8	奈良	1の範囲	土師器盤・甕、土器少頃が出土。
S K9109	土坑	145-1	土坑10	K5	s11	鎌倉		土師器盤(1)、土師器鏡(南伊勢系)が出土。
S D9110	溝	145-1	溝11	K5	t12	奈良	1の範囲	須恵器蓋(1)・甕、土師器盤片(1)が出土。
S K9111	土坑	145-1	土坑12	K5	t9	奈良	1の範囲	土師器蓋・杯、須恵器蓋が出土。
S K9112	土坑	145-1	土坑13	K5	s11	奈良	1の範囲	土師器蓋が出土。
S K9113	土坑	145-1	土坑14	K5	u8	奈良	1の範囲	瓦器器皿・土師器蓋が出土。
S D9114	溝	145-3	溝1	L13				出土遺物なし。
S K9115	土坑	145-4	土坑1	Q13				出土遺物なし。
S D9116	溝	145-5	溝2	G12				出土遺物なし。
S D9117	溝	145-11	溝1	R13				出土遺物なし。
S D9118	溝	145-11	溝2	R13				方格地軸、出土遺物なし。
S Z9119	落ち込み	145-13	溝	K12	ii-2,j1-2,k1-2	近世		土師器鏡(南伊勢系)、近世陶器皿、火炎が出土。土器多量。
S D9120	溝	145-17	溝	K6				出土遺物なし。
S Z9121	落ち込み	145-17	落ち込み	K6				出土遺物なし。
S D9122	溝	145-19	溝1	U7	p2~t2	鎌倉		土師器片(2)の範囲)・甕・杯、山茶碗(6)、陶器片、白磁、羅刹陶器内土。
		9123						矢穴
S D9124	溝	145-19	溝2	U7	p2~t2	鎌倉		土師器片(甕・甕・高杯、口)、須恵器蓋・甕、山茶碗(6)が出土。
S D9125	溝	145-19	溝3	U7	s3~t3	中世~		陶器片、土器少頃が出土。
S D9126	溝	145-19	溝4	U7	r2・s2・s3・3	中世		土師器鏡(南伊勢系)、陶器蓋、土器少頃が出土。
S K9127	土坑	145-19	土坑5	U7	r3	室町		土師器高杯・甕、土師器鏡(南伊勢系)、山茶碗(6)、陶器蓋が出土。
S D9128	溝	145-19	溝6	U7	p3~s3	鎌倉		山茶碗(6~7)が出土。一部に墨板あり。
S D9129	溝	145-24	溝	U7	b19	中世		山茶碗(6~7)、土師器鏡が出土。土器少頃。鎌倉大蔵。
-	-	145-2	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-6	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-7	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-8	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-9	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-10	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-12	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-14	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-16	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-18	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-20	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-21	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-22	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。
-	-	145-23	-	-	-	-		番号を付す遺構が検出されなかった。

第2表 造構一覽表

遺構編番号	移動地図名	測量地図名	測量次数	地 区	グリッド	ピット番 号	ピット遺物の時期	壁脚時間	規 格 底面積(m) × 前後(m)	規 格 横幅(m) × 厚さ(m)	上 地	方 位 (N基準)	備 考				
S B8998	建物1	145-1	K5			p8 p12	土師器蓋				奈良	1(2.35)×4(9.4)	2.35-2.35	南北	N23.5°E		
S B9000	建物2	145-1	K5			p8 p12 q8 q9 q10 r7	土師器蓋(1-1~2) 須恵器蓋(1-1~2)				奈良	2(4.7)×4(9.4)	2.35-2.35	南北	N31.6°E		
S B9130	柱立1	145-19	T8			r9 p11 p13 p14 p15 p16 p17 p18 p19 p20 p21 p22 p23	土師器片 土師器片 土師器蓋(1?)・皿片 土師器蓋(1?) 土師器蓋(1?) 土師器蓋(1?) 土師器蓋(1?) 土師器蓋(1?) 土師器蓋(1?) 須恵器蓋(1)(使用範 (1-1-2))					中世	2(2.35)+×1(1.8)+	1.4-1.8	東西?	N9.0°W	越塀柱物
S B9131	柱立2	145-19	T8			p15 p16	土師器蓋片				奈良	1(1.6)+×1(1.0)+	1.6-1.6	東西?	N12.0°W		
S B9132	柱立3	145-19	T8	11		p13 p17	土師器片 須恵器蓋片				日	1(1.8)+×*	1.8-*	東西	N6.0°E	東西柱例のみ	

第3表 硬立柱柱物一覧表 (8999は欠番)

**概況**) 調査地は、斎王の森から東約350mに位置する。現況は畠地である。現地表面の標高は約9.4m、遺構検出面は黄橙色粘質土で、標高約9.0m前後で確認した。

**遺構と遺物**) 挖立柱建物を3棟、溝を5条、土坑を1基、時期不詳の柱穴を多数確認した。S B9130は調査区内で東西1間、南北1間分を確認した。調査区外の北と西方向に延びるものと思われる。S B9131は調査区内で東西2間、南北1間分が確認できた。総柱建物と考えられる。調査区外の北と西方向に延びるものと思われる。S B9132は調査区内で東西1間分を確認した。調査区内に対応になる柱列は確認できなかつたが掘立柱建物と判断した。調査区外に延びるものと考えられる。この3棟とも建物を構成する柱跡群から土師器等の出土が確認できた。しかしながら、小片ばかりなので建物の所属時期については判然としないが、S B9132は斎宮編年II期に相当し、S B9130とS B9131は遺構の切り合い関係から中世のものと思われる。S D9122・9124・9125・9128については、ほぼ東西方向に延びるものであり、区画的な性格のものであろう。S D9122からは、古代のものと考えられる土師器皿・甕(第12図8~12)、藤澤編年5・8型式に比定すると思われる山茶碗(第12図13~15)、陶器鉢(第12図16)が出土していて、時期幅があるようである。同様に、S D9124(第12図17)、S D9125(第12図18)、S K9127(第12図19~21)においても出土した遺物に時期の幅がみられる。

(小瀬 学)

## 20 第145-20次調査 (6 A P 9)

調査場所 多気郡明和町斎宮字宮ノ前地内

原 因 側溝設置

調査期間 平成16年9月17日~22日

調査面積 53m<sup>2</sup>

**概況**) 調査地は、いつきのみや歴史体験館から斎王の森へ延びる町道の斎王の森付近に位置する。現況は道路である。現地表面の標高は約10.8m前後である。最終的には、最高で現地表面から深さ1.555mの掘削を実施したものの、遺構検出面は確認することができなかつた。道路建設や既設ボックスカルバートを埋設時に、遺構検出面が削平されたのであろうか。

(小瀬 学)

## 21 第145-21次調査 (6 A D 9・E 8・E 9)

調査場所 多気郡明和町竹川字戸戸内

原 因 側溝設置

調査期間 平成17年1月25日

調査面積 1 m<sup>2</sup>

**概況**) 調査地は、斎宮小学校から西へ約800m、近鉄線北側に位置する。現地表面の標高は約9.1m前後である。掘削深度が浅いため、調査対象部分で遺構検出面には到達しないことが判明した。そのためトレンチを人力で1ヶ所設定し、標高約7.7m前後まで掘削し、土層及び遺構の状況を確認した。その部分の基本層序は、上から、盛土(道路敷の土)、灰色砂礫、オリーブ灰色シルト、暗褐色土、オリーブ灰色砂質土であった。トレンチ内では遺構・遺物ともに確認できなかつたが、オリーブ灰色シルトあるいはオリーブ灰色砂質土の上面が遺構検出面になる可能性がある。

(小瀬 学)

## 22 第145-22次調査 (6 A O13)

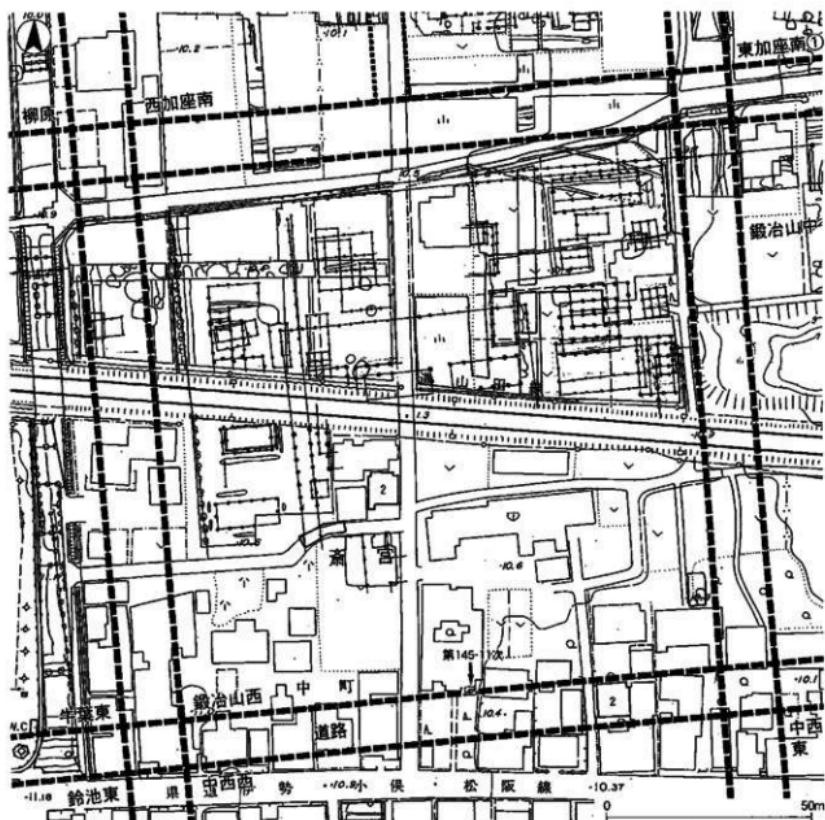
調査場所 多気郡明和町斎宮字鈴池4429

原 因 倉庫建築

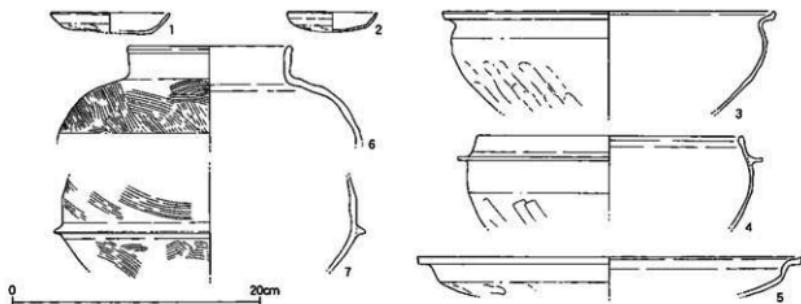
調査期間 平成17年1月25日

調査面積 5 m<sup>2</sup>

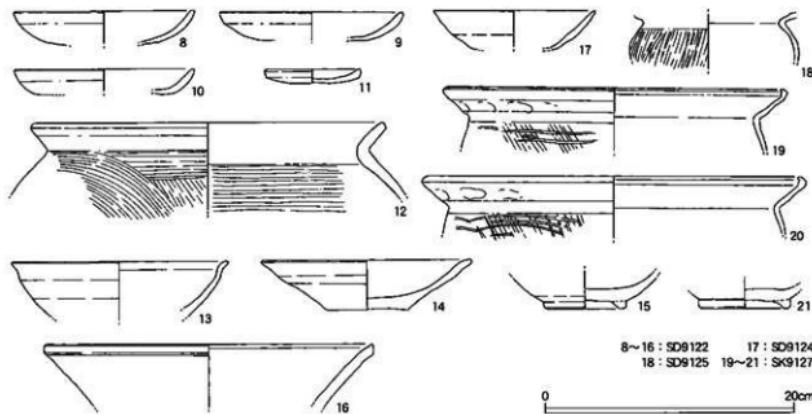
**概況**) 調査地は、斎宮駅から南約200m付近に位置する。現況は水田で、方格地割木葉山東区画のほぼ中央に位置する。現地表面の標高は約11.5m、遺構検出面は橙色粘質土で、標高約10.6m前後で確認した。



第10図 第145-11次調査区と方格地割の位置関係 (1 : 1,200)



第11図 第145-13次調査 出土遺物実測図 (1 : 4, S Z9119出土)



第124図 第145-19次調査 出土遺物実測図 (1 : 4)

No.	器名	出土地點	断面	高さ (cm)	裏面・底面の特徴	地 土	地 面	色 調	断面度	施 工	DIN
1	145-13	6AK12 p2 S2 3019	14	8.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	黄 (茶色目)	凸	SD9122/8	0.3 / 12		012-05
2	145-13	6AK12 p2 S2 3018	14	7.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	黄 (茶色目)	凸	SD9122/7/6	1.6 / 12		012-06
3	145-13	6AK12 p2 S2 3018	14	26.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	黄 (茶色目) 程度有り	凸	SD9122/5/4 / 2. 隅端 T.5 YR8.4 / 1	1.3 / 12	火照り有	012-06
4	145-13	6AK12 p2 S2 3018	14	21.4	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	黄 (茶色目)	凸	SD9122/6/8	1.3 / 12	火照り有	012-06
5	145-13	6AK12 p2 S2 3019	14	21.2	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	黄 (茶色目) 程度有り	凸	SD9122/5/4 / 1 内: 深褐色 T.5 YR8.5 / 4	1.3 / 12	火照り有	012-06
6	145-13	6AK12 p2 S2 3019	14	13.2	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ、内: オサナ	黄 (茶色目) 程度有り	凸	SD9122/6 / 4 内: 深褐色 T.5 YR8.5 / 4	1.8 / 12	スヌ	014-02
7	145-13	6AK12 p2 S2 3019	14	13.2	口: ハコマサ & 6cm、側面後半ナメ化メタリム 内: オサナ	黄 (茶色目) 程度有り	凸	SD9122/6 / 6	1 / 12	スヌ	014-02
8	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	14.4	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/8 / 3	0.3 / 12		022-04
9	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	14.4	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/8 / 4 (~1.5mm厚)	0.3 / 12	火照り有	022-04
10	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	14.8	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/7 / 3 (~1.5mm厚)	0.3 / 12		022-04
11	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	7.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/10 YR8.4 / 4 (~2mm厚)	1.6 / 12	火照り有り、火がみあり	022-04
12	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	20.5	口: ハコマサ & 5cm 底: ハコマサ & 4cm	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.4 / 4 (~2mm厚)	0.3 / 12	スヌ	024-01
13	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	17.5	口: ポロリ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.4 / 2 (~2mm厚)	1.2 / 12		022-04
14	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	12.5	口: ポロリ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/3 YR8.2 / 2 (~2mm厚)	0.3 / 12	火がみあり	022-04
15	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	8.5	口: ポロリ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/5 YR6.2 / 2 (~2mm厚)	1.4 / 12		022-04
16	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	26.5	口: ポロリ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/3 YR6.3 / 3 (~2mm厚)	1.3 / 12		022-04
17	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	12.5	口: ナメ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.3 / 2 内: ナメ	1.2 / 12	火照り有	022-04
18	145-13	6AT8 p2 SD9122	14	12.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.3 / 2 内: 深褐色 T.5 YR8.4 / 4	2 / 12		022-04
19	145-13	6AT8 p2 SK9127	14	27.5	口: ポロリ 底: ハコマサ、内: ナメ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.2 / 2 内: 深褐色 T.5 YR8.4 / 4	1.1 / 12	スヌ	021-03
20	145-13	6AT8 p2 SK9127	14	30.5	口: ナメ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.4 / 4 内: 深褐色 T.5 YR8.7 / 4	1.1 / 12	スヌ	021-03
21	145-13	6AT8 p2 SK9127	14	7.5	口: ポロリ 底: ハコマサ	中やや (茶色目)	凸	SD9122/2 YR8.2 / 2 (茶色目)	0.4 / 12		022-04

第4表 遺物観察表

調査次数	地 区	グリット	遺構・層名	縦軸破片数	備 考
145-19	6AT8	p2	SD9122	1	

第5表 緑陶陶器出土地点破片数一覧表

**遺構と遺物** 基礎部分の5箇所を調査した。基本層序については、造成の盛土上面から、盛土、旧耕作土、橙色粘質土であった。橙色粘質土の上面が遺構検出面とも考えられるが、昭和59年度第48-14次調査の成果からも、営農のために削平されている可能性がある。調査部分において、遺構・遺物とも確認することはできなかった。  
(小濱 学)

### 23 第145-23次調査（6 A R 7）

調査場所 多気郡明和町斎宮字西前沖2604-52

原 因 建物建築

調査期間 平成17年2月9日～3月8日

調査面積 30m<sup>2</sup>

**概況** 調査地は、竹神社から北約500m付近に位置する。現況は住宅地である。現地表面の標高は約10.3m、遺構検出面は明黄褐色粘質土層で、標高約9.4m前後で確認した。明黄褐色粘質土上面で遺構を検出した。中世から近世にかけてのものと考えられる柱穴を数基確認した。平成15年度には、南側道路部分の第142-5次調査、平成16年度には調査地の西側部分で第145-16次調査を実施している。  
(小濱 学)

### 20 第145-24次調査（6 A U 7）

調査場所 多気郡明和町斎宮字東前沖2505-4

原 因 発掘調査

調査期間 平成17年3月3日～16日

調査面積 198m<sup>2</sup>

**概況** 調査地は、旧陸軍関係施設あるいは製糸工場跡で現在文部科学省の所管になっている。史跡整備を行なうにあたり、地下遺構の状況などの資料をえるため発掘調査を実施した。現地表面の標高は約9.6m、遺構検出面は明黄褐色粘質土層で、標高約9.2m前後で確認した。

**遺構と遺物** 調査の成果としては、中世のものと考えられる溝S D9129、柱穴多数を確認した。S D9129については、通称鎌倉大溝と呼ばれているものの一部分と思われる。方向は北を中心に西へ約55度振る。幅約1.7m、検出面からの深さ0.8m前後の規模であった。陸軍あるいは製糸工場による擾乱を全体に受けているためと考えられ、調査区の東側では製糸工場関連の水槽の跡を思われるものを2ヶ所確認した。  
(小濱 学)

### 註

- (1) 小濱 学・中野教夫・伊藤裕偉『史跡斎宮跡平成16年度現状変更緊急発掘調査報告』(明和町、2005年)に詳しい。
- (2) 駒田利治・泉 雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告』I 斎宮歴史博物館、2001年)を参照した。
- (3) 伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海をみる」(『鍋と甕—そのデザイナー』 東海考古学フォーラム、1996年)に詳細が述べられている。
- (4) 藤澤良祐「山茶碗と中世集落」『尾呂』(瀬戸市教育委員会、1990年)、「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター、1994年)を参照した。

## 付篇 史跡現状変更等許可申請

平成16年度中の史跡現状変更等許可申請は、45件提出された。このうち16年度中に発掘調査を行ったのは、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、史跡整備事業に伴うものが1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが14件である。なお、本書に掲載している第145-1～4・6～9・14次調査の9件は前年度申請分である。

そのほかの27件のうち、次年度の調査とした5件以外は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

16年度の申請の内容は、一覧表（第6表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

### （A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び増築に伴うもので23件（うち工法変更2件含む）あった。16件については発掘調査が必要とされ、そのうち16年度に調査されたものは、個人住宅等の建設に伴い浄化槽部分や基礎部分など12件（第145-5・10～13・15～19・22・23次調査）である。

他の7件（うち工法変更2件含む）については、個人住宅の建設や除去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

### （B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は19件の提出があった。その内容は、道路側溝や舗装工事が4件、上水及び下水道管の布設開係が3件、電柱及び支線等の新設及び撤去が9件、学校施設や防災施設の設置が3件である。その内調査対象となったものは、側溝設置の2件（第145-20・21次調査）であり、上水道管の改修に伴う調査は次年度で行うこととした。そのほかは工事立会いで着工している。

### （C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡環境整備および維持管理等に伴う申請はなかった。

### （D）発掘調査のための申請

この申請は3件あり、2件は、三重県教育委員会が主体となり斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、980m<sup>2</sup>が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。他の1件は、史跡環境整備事業を実施するにあたり、地下遺構の状況を把握するための発掘調査（第145-24次調査）の申請である。

（中野教夫）

申 請 地	種 別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 日	許 可 日	変更面積	区 分	備 考
1 奈宮字柳原2792-1ほか4筆	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	16.4.13	16.5.21	500m <sup>2</sup>	1	第143次調査
2 竹川字東裏地内	B	三重県	側溝改修	16.4.13	16.5.28	L=5m	3	
3 奈宮字塚山3338-7、-8	A	個人	建物建築等	16.4.16	16.5.28	66.248m <sup>2</sup>	4	第145-15次調査
4 奈宮字宮ノ前地内	B	明和町(建設課)	側溝設置	16.4.23	16.6.18	L=83.45m	1	第145-20次調査
5 奈宮字下園2926-8	A	個人	浄化槽設置	16.5.7	16.6.18	1基	4	
6 奈宮字中西2748-1	A	個人	建物建築	16.5.10	16.6.18	111.5m <sup>2</sup>	4	第145-11次調査
7 奈宮字広頭3385-2	B	明和町教育委員会	建物増築	16.5.13	16.6.18	8m <sup>2</sup>	4	
8 竹川字東裏266-5	A	個人	建物建築	16.5.17	16.6.18	65.75m <sup>2</sup>	3	第145-13次調査
9 竹川字東裏334-8	B	近畿日本鉄道株式会社	支線用アンカー設置	16.5.24	16.6.4	2箇所	3	
10 竹川字中垣内459	A	個人	浄化槽設置等	16.5.24	16.6.25	1基	4	第145-5次調査
11 竹川字東裏357-4	A	個人	便槽設置等	16.6.11	16.7.16	1基	4	第145-12次調査
12 奈宮字西前神2635-1	A	個人	建物改築等	16.6.17	16.7.23	82.80m <sup>2</sup>	4	
13 奈宮字西前神2604-51	A	個人	建物建築等	16.6.18	16.9.17	65.60m <sup>2</sup>	4	第145-16次調査
14 竹川字中垣内406ほか6筆	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	16.7.15	16.8.6	480m <sup>2</sup>	2	第144次調査
15 竹川字戸戸地内	B	竹川自治会	側溝設置	16.6.29	16.9.17	L=167m	3	第145-21次調査
16 奈宮字広頭3387-1、3385-2	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の新設	16.7.5	16.7.22	1本	4	
17 奈宮字牛葉3016-1	A	個人	建物除去	16.8.2	16.9.3	98.18m <sup>2</sup>	4	
18 奈宮字中西1053	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の新設	16.8.3	16.8.18	1本	4	
19 竹川字東裏352-1	A	個人	浄化槽設置等	16.8.9	16.9.7	1基	4	第145-10次調査
20 奈宮字西加頭2678-2	A	個人	浄化槽設置等	16.8.10	16.10.15	1基	4	第145-18次調査
21 奈宮字塚山3269-1	A	個人	建物建築等	16.8.10	16.9.17	66.24m <sup>2</sup>	3	工法変更
22 奈宮字北野、西前神、東前冲地内	B	明和町(上下水道課)	下水道管布設等	16.8.20	16.9.24	L=1,195m	3	
23 奈宮字東前神2501	A	個人	建物建築等	16.8.22	16.10.15	114m <sup>2</sup>	3	第145-19次調査
24 奈宮字東加座地内	B	明和町(上下水道課)	ポーリング調査	16.9.7	16.10.15	2箇所	2	
25 奈宮字塚山2289-5	A	個人	建物改築等	16.9.8	16.10.15	61.23m <sup>2</sup>	4	
26 奈宮字塚山3276-15	B	霸王自治会	消火栓用具格納庫の設置	16.9.10	16.10.4	2箇所	1 2	
27 竹川字東裏266-5	A	個人	建物建築等	16.10.19	16.12.10	65.75m <sup>2</sup>	3	
28 奈宮字牛葉地内	B	明和町(上下水道課)	道路の舗装	16.10.19	16.11.16	20m	3	
29 奈宮字塚山3269-1	A	個人	建物建築等	16.10.27	16.12.10	66.24m <sup>2</sup>	3	工法変更
30 奈宮字広頭3149-1ほか	B	明和町(総務課)	倉庫の設置	16.11.4	16.12.10	16.5m <sup>2</sup>	4	
31 奈宮字田代3230-3、-4	A	個人	建物改築等	16.11.1	16.12.10	71.89m <sup>2</sup>	4	第147-1次調査
32 奈宮字牛葉323	A	個人	建物建築等	16.11.5	16.12.10	143.27m <sup>2</sup>	3	第147-13次調査
33 奈宮字牛葉3013-1	A	個人	フェンス設置等	16.10.8	16.12.10	47m <sup>2</sup>	3	
34 奈宮字鈴池4429	A	個人	倉庫建築	16.12.1	17.1.21	36.69m <sup>2</sup>	3	第145-22次調査
35 奈宮字西前神2604-52	A	個人	建物建築	16.12.9	17.1.21	91.56m <sup>2</sup>	4	第145-23次調査
36 奈宮字東前神2505-4	D	明和町(奈宮跡調)	発掘調査	17.1.4	17.2.18	198m <sup>2</sup>	4	第145-24次調査
37 奈宮字塚山3269-1	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の新設	17.1.6	17.1.25	1本	4	
38 奈宮字牛葉572-2	A	個人	建物改築等	17.1.11	17.2.18	55m <sup>2</sup>	4	第147-2次調査
39 奈宮字内山3027-1	B	中部電力株式会社 松阪営業所	支線の撤去	17.1.31	17.2.15	1本	4	
40 奈宮字牛葉2902	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱支線及びアンカー補強	17.2.3	17.2.21	1本	1	
41 奈宮字中西601-1	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱支線及びアンカー撤去	17.2.3	17.2.21	1本	4	
42 奈宮字牛葉3038-1、-2	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱支線及びアンカーの新設	17.2.14	17.3.7	1本	4	
43 奈宮字塚山2604-49	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱の新設	17.2.28	17.3.4	2本	1	
44 奈宮字木賊山、鈴池、中西地内	B	明和町(上下水道課)	上下水道管改修工事	17.3.8	17.4.22	L=3,000m	4	第147-3、4次調査
45 奈宮字鈴池2342-5、-6	A	個人	建物建築	17.3.10	17.4.22	81.97m <sup>2</sup>	3 4	第147-12次調査

第6表 平成16年度 現状変更等許可申請一覧表

# 写 真 図 版





第145-1次 調査区全景（東から）



第145-1次 SB8998（南から）

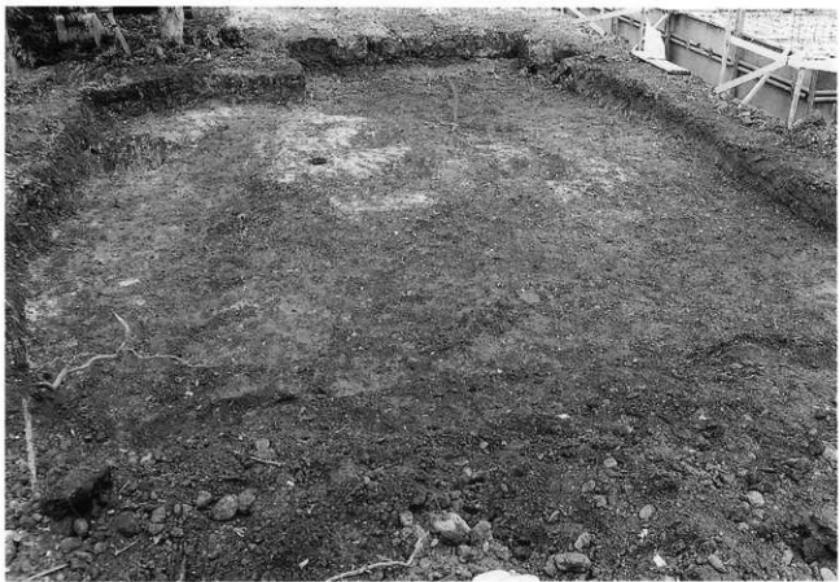
写真図版2



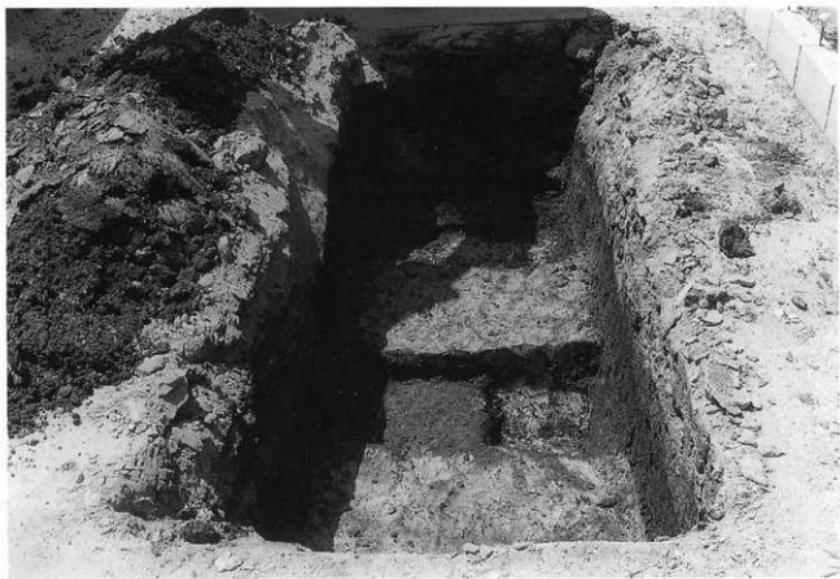
第145-1次 SB9000（南から）



第145-1次 SD8986・9110（西から）

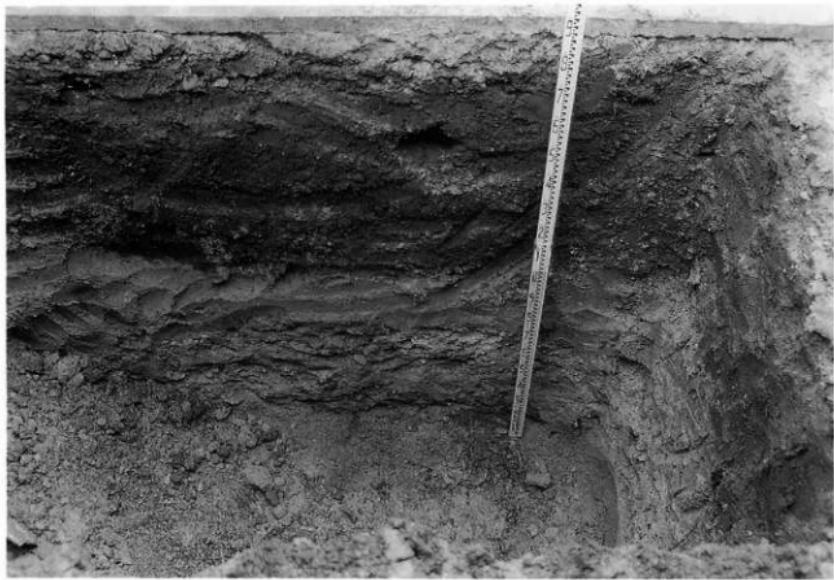


第145-2次 調査区全景（南から）



第145-3次 調査区全景（北から）

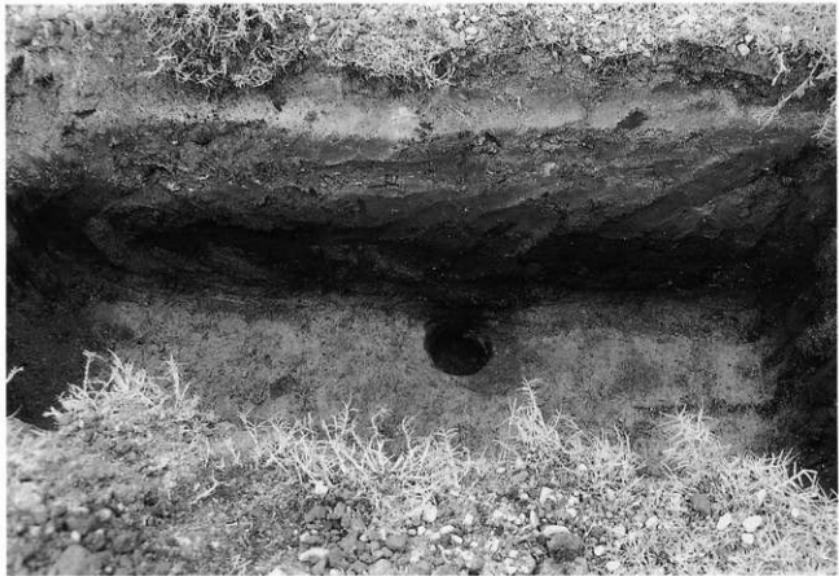
写真図版4



第145-10次 土層断面（東から）



第145-13次 調査区全景（東から）



第145-15次 調査区全景（西から）

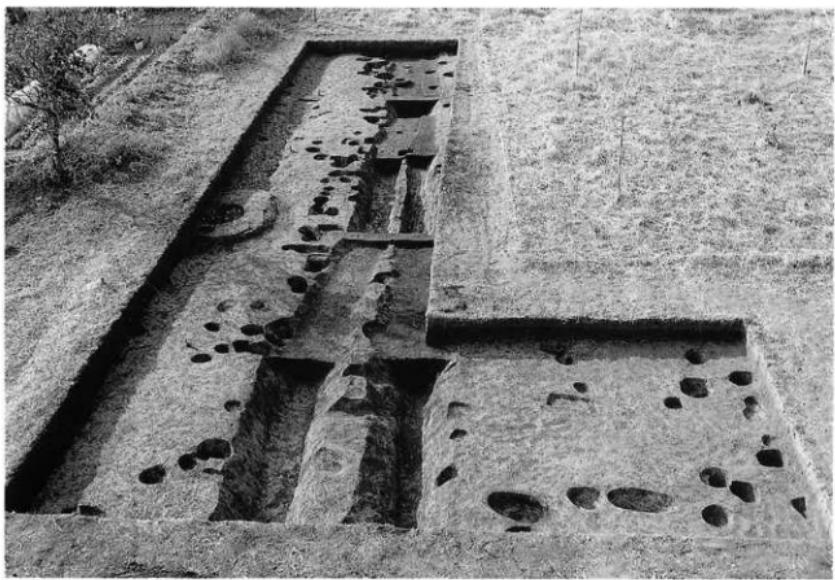


第145-17次 SD9120（北西から）

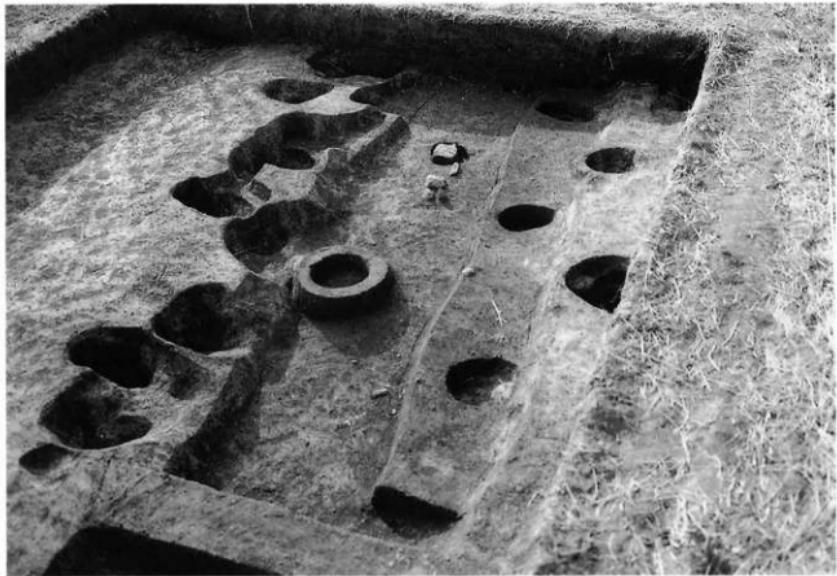
写真図版 6



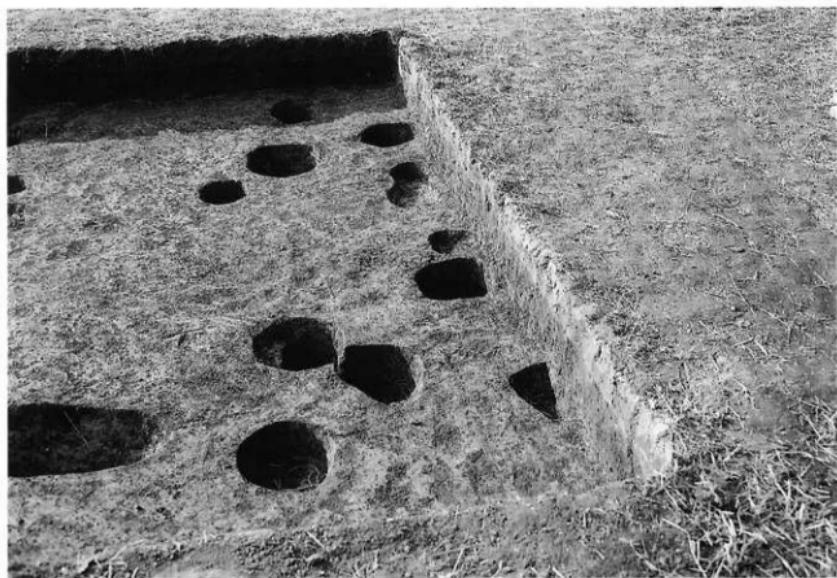
第145-18次 調査区全景（北から）



第145-19次 調査区全景（東から）



第145-19次 S B9130・9131 (東から)



第145-19次 S B9132 (東から)

写真図版8



第145-20次 調査風景（南から）



第145-24次 調査区西側（北西から）



第145-24次 調査区東側（南から）



第145-24次 S D9129（西から）

## 報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいじゅうろくねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	史跡斎宮跡 平成16年度現状変更緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	22							
編著者名	小瀬 學・竹内英昭・中野敦夫							
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究グループ）・明和町（斎宮跡課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596(52)7126							
発行年月日	西暦 2006年 3月 24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査積 (m <sup>3</sup> )	調査原因
市町村	遺跡番号	。	、	°	'	~		
さいくうあと 斎宮跡	多気郡明和町 さいくうあと 斎宮・竹川	24442	210	34°31'55"	136°36'16"	20040401	全24件	史跡現状変更に 伴う緊急発掘調 査
～ 34°32'30"	～ 136°37'37"	20050331	合計 2,372m <sup>3</sup>	(史跡斎宮跡第 145次調査)				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
斎宮跡第145次	官衙・集落	奈良 平安 鎌倉 室町以降	掘立柱建物 土坑 溝 落ち込み	土師器 須恵器 縄釉陶器 山茶椀 鉄製品				
要約	第145-1次調査では、斎宮I-1～2段階と考えられる掘立柱建物2棟を確認した。第145-11次調査では、方格地割鍛冶山西地区に南面する道路の北側側溝を確認することができた。第145-17次調査では、時期は不詳だが、深さ1.1m前後の溝を検出した。第145-19次調査では、掘立柱建物3棟、区画溝と考えられるものを含んだ溝5条を確認することができた。第145-24次調査では、通称鎌倉大溝と呼称される溝の一部分と考えられる幅1.7m、深さ0.8m前後の溝を確認した。							

---

史跡 斎宮跡  
平成16年度  
現状変更緊急発掘調査報告

平成18(2006)年3月24日

編 集 斎宮歴史博物館  
明 和 町  
発 行 明 和 町  
印 刷 光出版印刷株式会社

---

